

第24回 機関リポジトリの次の一手を考える

Data Spaces Symposium 2026

参加報告

2026/2/27 10:00-

坂本 拓 (JPCOAR)

Data Spaces Symposium

2024年 @ダルムシュタット (ドイツ)

2025年 @ワルシャワ (ポーランド)

2026年 @マドリード (スペイン)

開催日時：2026年2月10(火)～2月11日(水)

参加者数：1,200名以上 (35カ国)

そもそも
Data Spaceってなに？

2種類のデータ

オープンにできるデータ

オープンサイエンス

リポジトリ

オープンデータ

即時OA

オープンにできないデータ

個人情報

競争性のある
データ

企業秘密

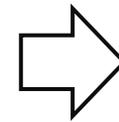
これらはずっとお蔵入り？

でもこのデータも必要としている人がいて、
その人になら提供しても構わないという
ケース、きっとあるよね??

データスペース

デリケートな
データ

必要とする
適切な利用者



データスペース EUで誕生した概念

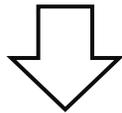
背景 “A European strategy for data” 2020年

「世界のデータの大部分を少数の大手テクノロジー企業が保有」

- ・「米国の少数の民間企業への著しい集中」



- ・「中国では政府による監視と大手IT企業による統制」



「データ経済における今後数十年間の競争は、今、決定づけられる」

「プライバシー、セキュリティ、安全性、倫理基準を維持しながら、欧州らしいやり方を見つけ出す必要」

データスペースを構成する主な概念

- データ主権 (Data sovereignty)

データを誰にどのような条件で利用させるかの決定について、データ提供者が絶対的な権利を持つ。

- 信頼性 (Trust)

厳格な認証を行うことで、各参加者が何者なのか相互の信頼性を担保する。

- 相互運用性 (Interoperability)

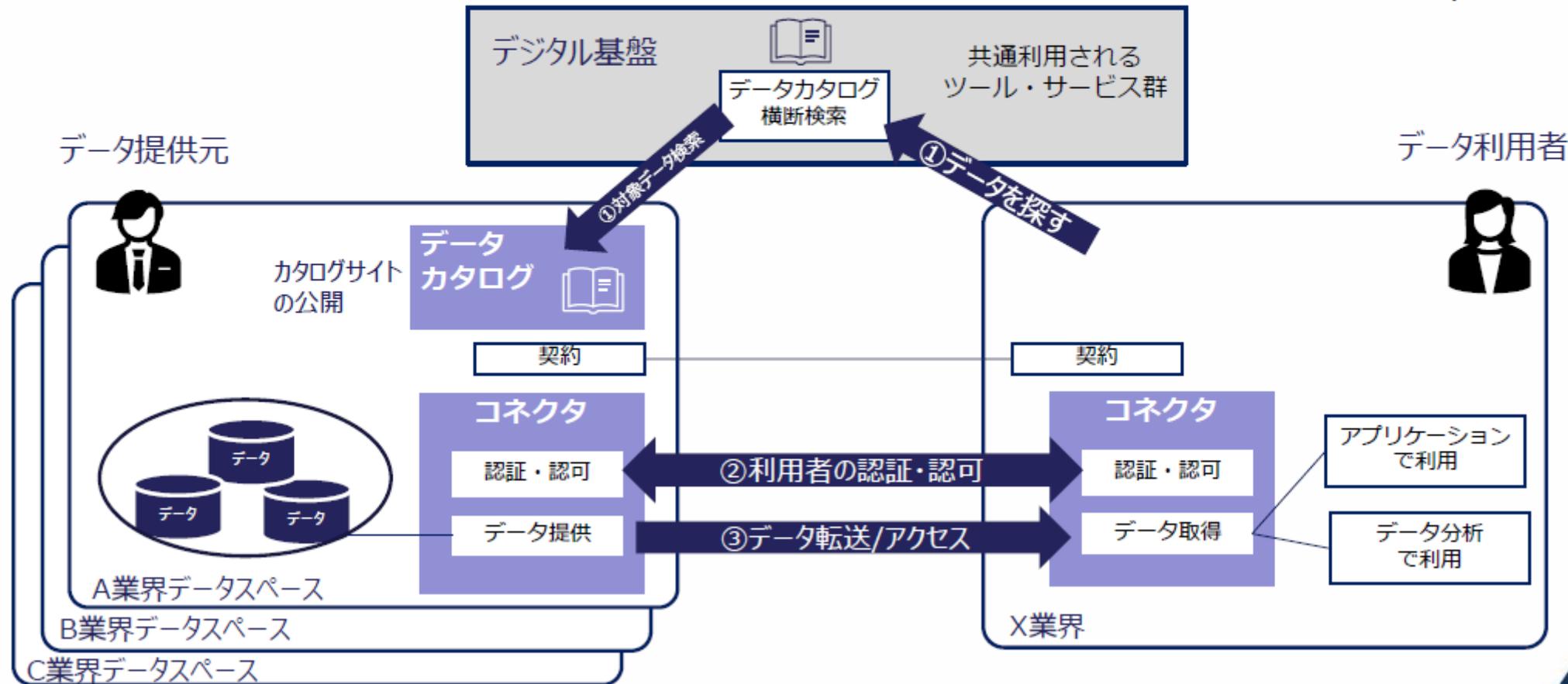
多様な相手とのデータの送受信/アクセスが可能。

- 非中央集権 (Decentralized)

各参加者はデータスペースにデータを提供(格納)することはせず、各自がデータを保持する。

データスペースのデータ連携イメージ

- データスペースの連携は主に3ステップ ①データを探す ②認証・認可 ③データ転送/アクセス



データスペースの推進者

- International data spaces Association (IDSA)

DSを促進するための非営利な国際組織。DSのアーキテクチャ、プロトコル、ルールブック等の基準を策定。

- GAIA-X

独・仏が共同で立ち上げた、データ交換の基盤(DS)構築のEUのプロジェクト。現在300社以上が加盟。

- Big data value association (BDV)

ヨーロッパを中心に200以上の企業、研究機関、ユーザー団体で構成。データ駆動型のDXを推進する非営利団体。

- FIWARE Foundation

EUが開発した、オープンソースのIoTの基盤ソフト、FIWAREの管理・普及を推進する非営利団体

- Data Space Business Alliance

上記の4団体が連携して、DSの構築・普及を目指して立ち上げた組織

Common European data spaces (CDS)

農業

文化遺産

エネルギー

金融

グリーン
ディール

医療

言語

製造業

メディア

自動車産業

行政

研究・イノ
ベーション

スキル

観光

欧州の14分野の欧州共通データスペースの相互接続を目指す。（ここに「防衛」も追加される予定）

欧州共通データスペースは、データのプールも行う！

Data Spaces Symposium 2026 報告内容

1. データスペースとAI
2. 文化遺産
3. 科学データ
4. 日本の状況

Data Spaces Symposium 2026

報告内容

1. データスペースとAI

2. 文化遺産

3. 科学データ

4. 日本の状況

2025年11月

「欧州データ統合戦略：AIのためのデータの解放」

(A European Data Union Strategy - Unlocking Data For AI)

EUの課題

1. データ不足 (公開されているAIのエサは、2032年までに食べつくされてしまう可能性)
2. 現行の規制の複雑性 (データスペースが場合によっては独禁法に抵触)
3. グローバル競争の激化 (米中の生成AIの台頭)



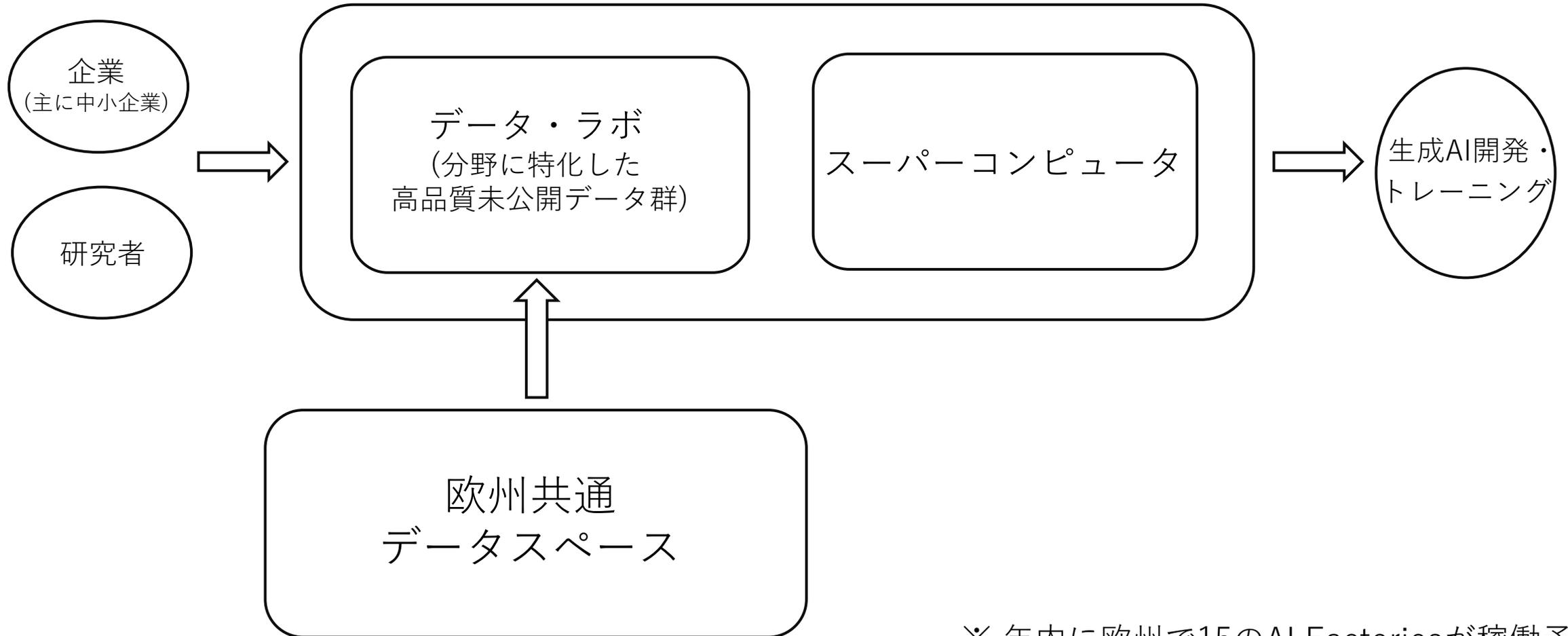
戦略の柱

1. AIとイノベーションのための高品質データへのアクセス拡大
2. データ規則の合理化
3. 戦略的な国際データ戦略によるEUの主権保持

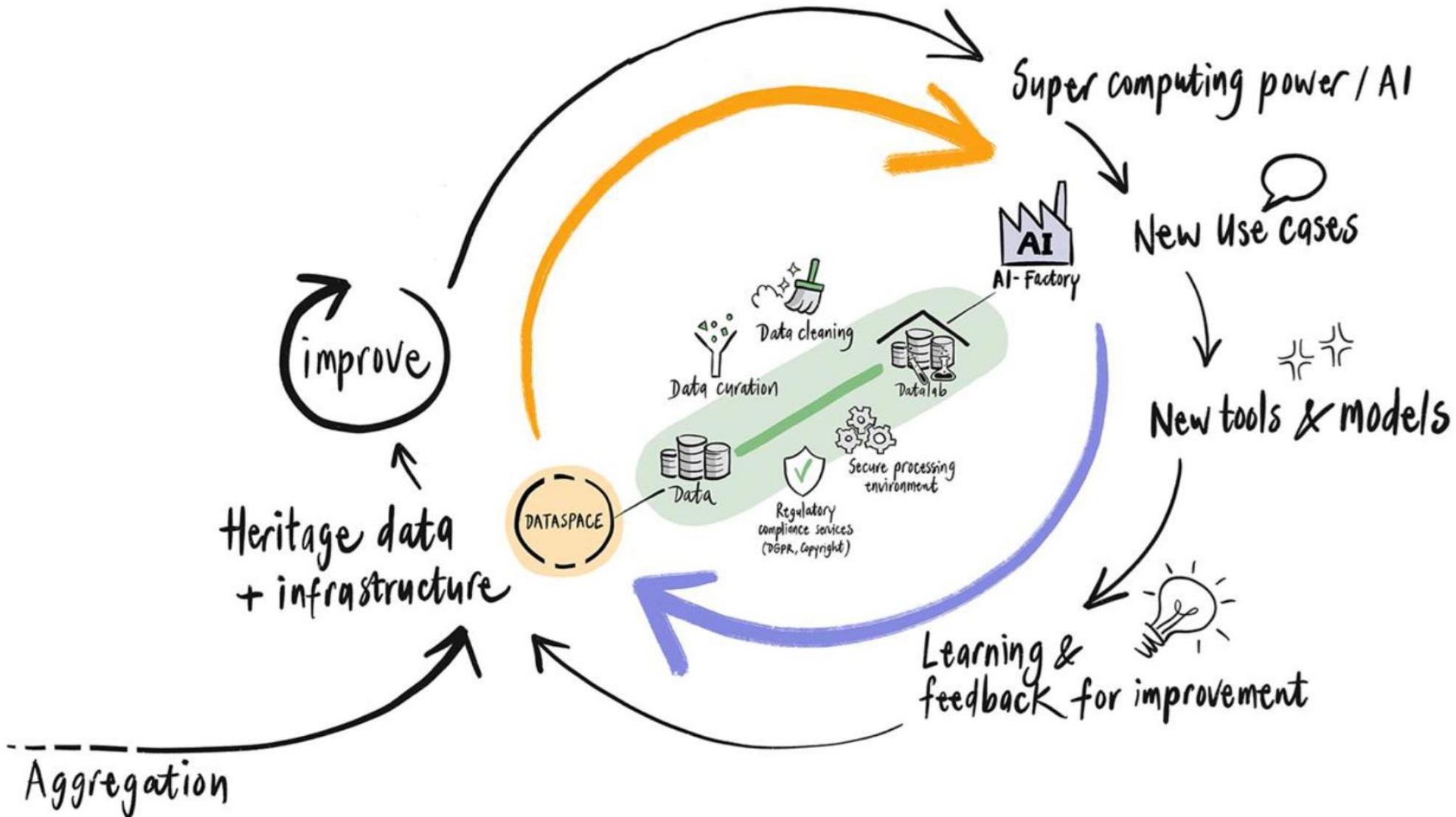
欧州データ統合戦略：柱1

「AIとイノベーションのための高品質データへのアクセス拡大」

“AI Factories” (AI工場)



※ 年内に欧州で15のAI Factoriesが稼働予定。



Data Spaces Symposium 2026 報告内容

1. データスペースとAI

2. 文化遺産

3. 科学データ

4. 日本の状況

欧州共通データスペース

農業

文化遺産

エネルギー

金融

グリーン
ディール

医療

言語

製造業

メディア

自動車産業

行政

研究・イノ
ベーション

スキル

観光

文化遺産データスペース (Common European data space for cultural heritage)

WELCOME TO THE
**common European data space
for cultural heritage**

Bringing cultural heritage collections together

CONTRIBUTE YOUR COLLECTIONS >

BROUGHT TO YOU BY
europeana

!!!??

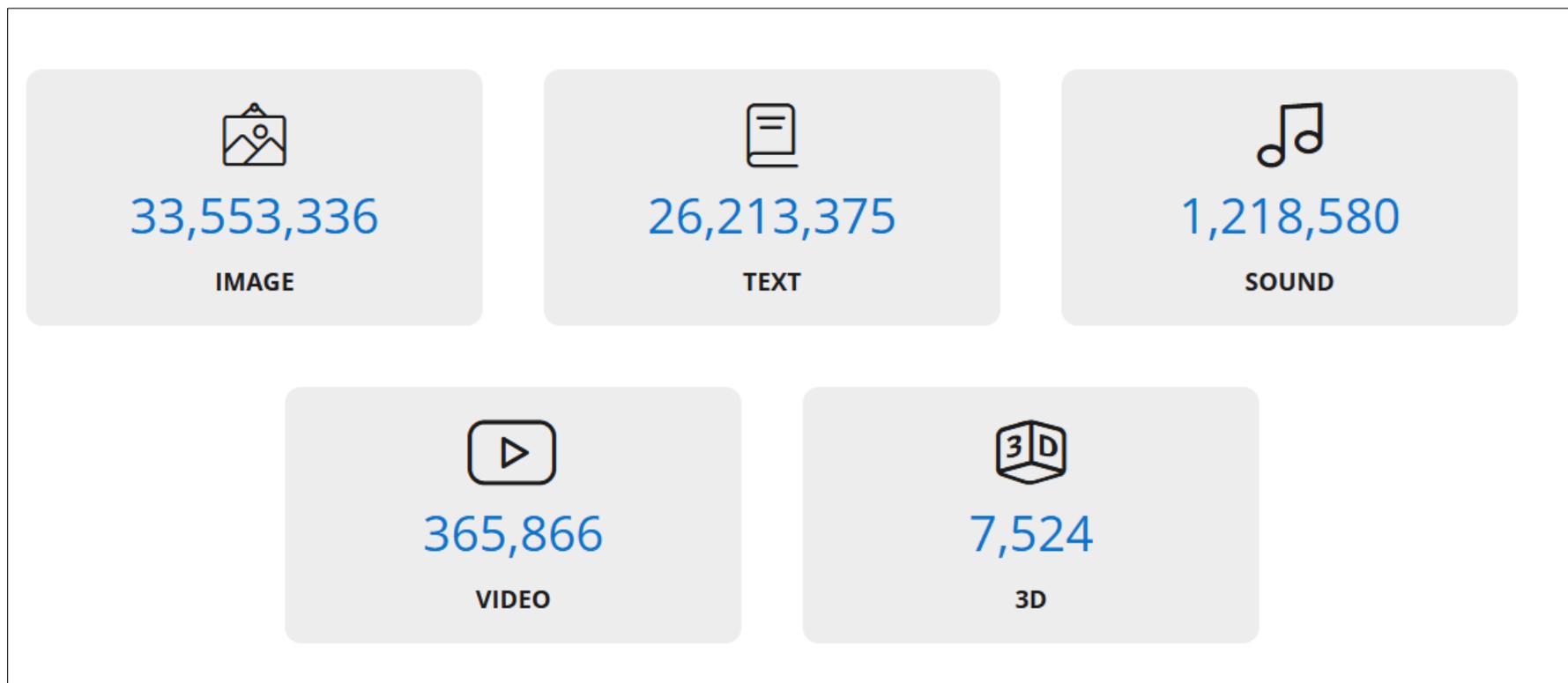
Reaching teachers and learners
through reuse of cultural heritage
Created August 7, 2025

Europeanaがデータスペース??

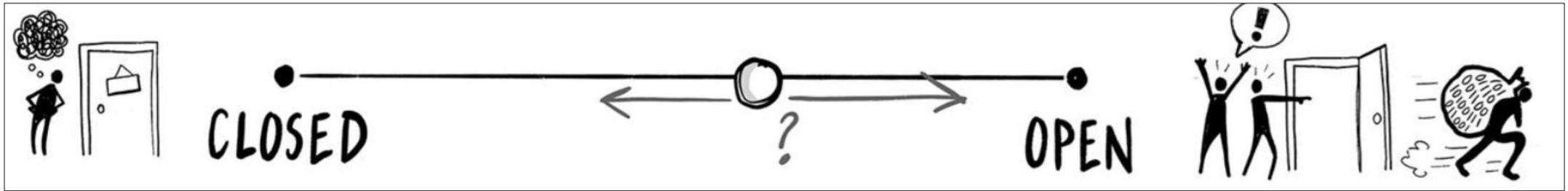
Europeana

2008年から始動。

欧州の博物館、図書館、美術館、文書館のデジタルアーカイブ



Europeanaのジレンマ



Valentine Charles氏の発表スライドから

- パブリックドメインの全データを取得し、AI用のデータセットとして販売される事例
- AI企業がデータを取得するけれど、ライセンスを守らない事例
- AIのボットがEuropeanaのインフラに悪影響を与える事例
- データはオープンだが、インフラは無料ではない

Europeanaの方針

個人の利用	オープン
API	申請によるキー交付
AIロボット	有料等の条件付き

データスペースではこの管理が可能

Data Spaces Symposium 2026 報告内容

1. データスペースとAI

2. 文化遺産

3. 科学データ

4. 日本の状況

欧州共通データスペース

農業

文化遺産

エネルギー

金融

グリーン
ディール

医療

言語

製造業

メディア

自動車産業

行政

研究・イノ
ベーション

スキル

観光

研究・イノベーションのデータスペースは、EOSC (Europe Open Science Cloud) が担当

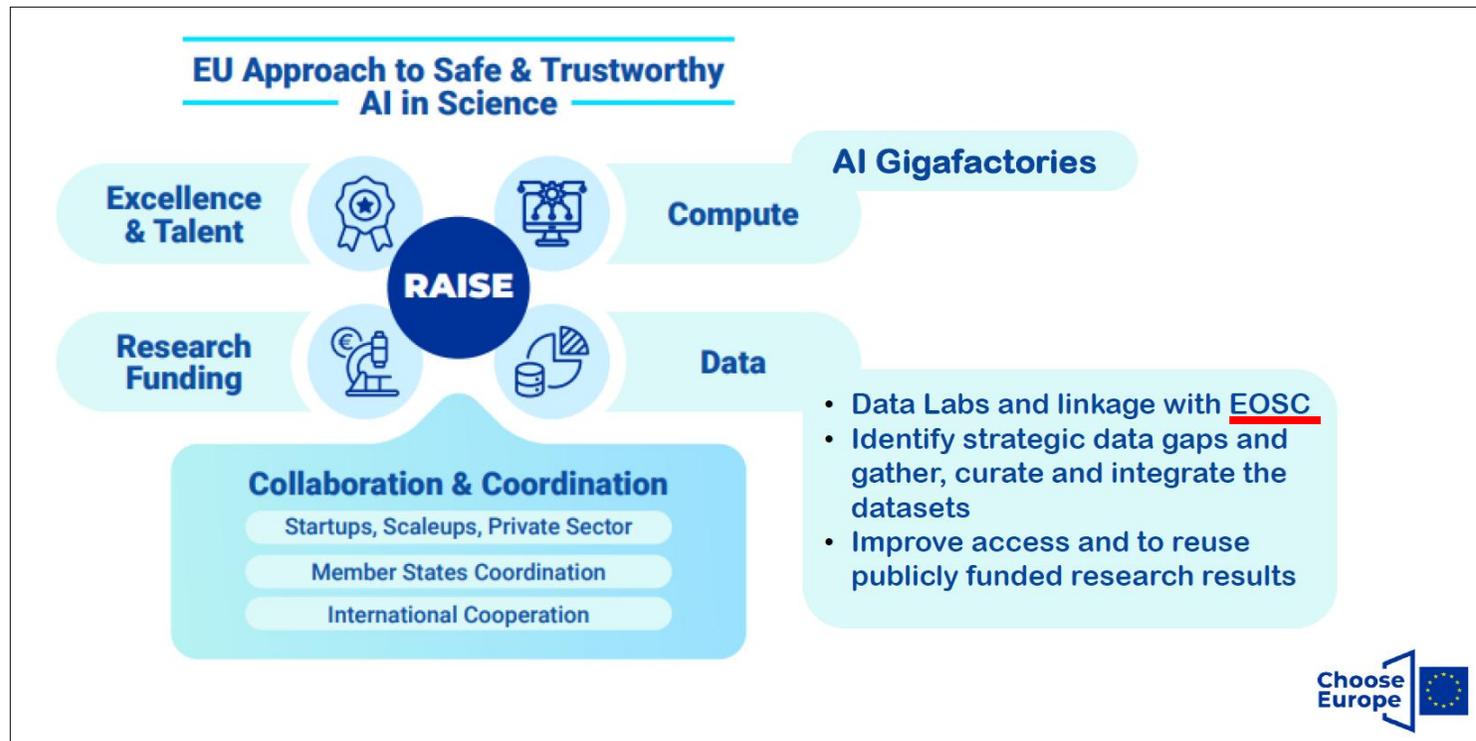


2025年11月

RAISE (Resource for AI Science in Europe)

「欧州AI科学リソース仮想研究機関」

- 科学研究のためのAIリソースをプール・調整
- 科学とAI、欧州諸国、企業を結びつける
- 大規模データセット、演算能力を提供



Data Spaces Symposium 2026 報告内容

1. データスペースとAI

2. 文化遺産

3. 科学データ

4. 日本の状況

日本のデータスペース

データスペースと類似の存在は限られた範囲で以前から存在。



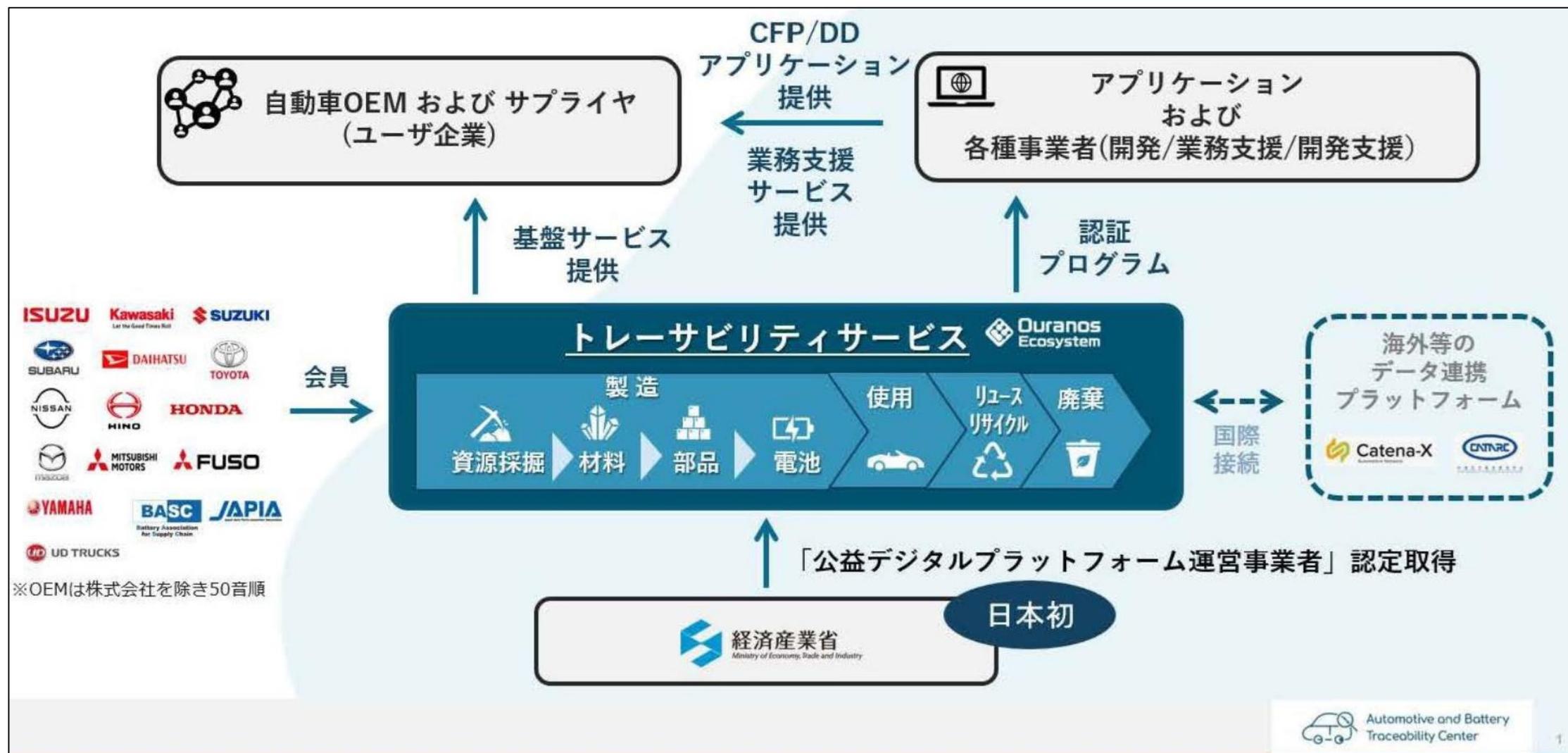
2023年4月

「**ウラノス・エコシステム**」として国レベルで始動

- ・ 経済産業省
- ・ IPA(情報処理推進機構)
- ・ NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構) 等

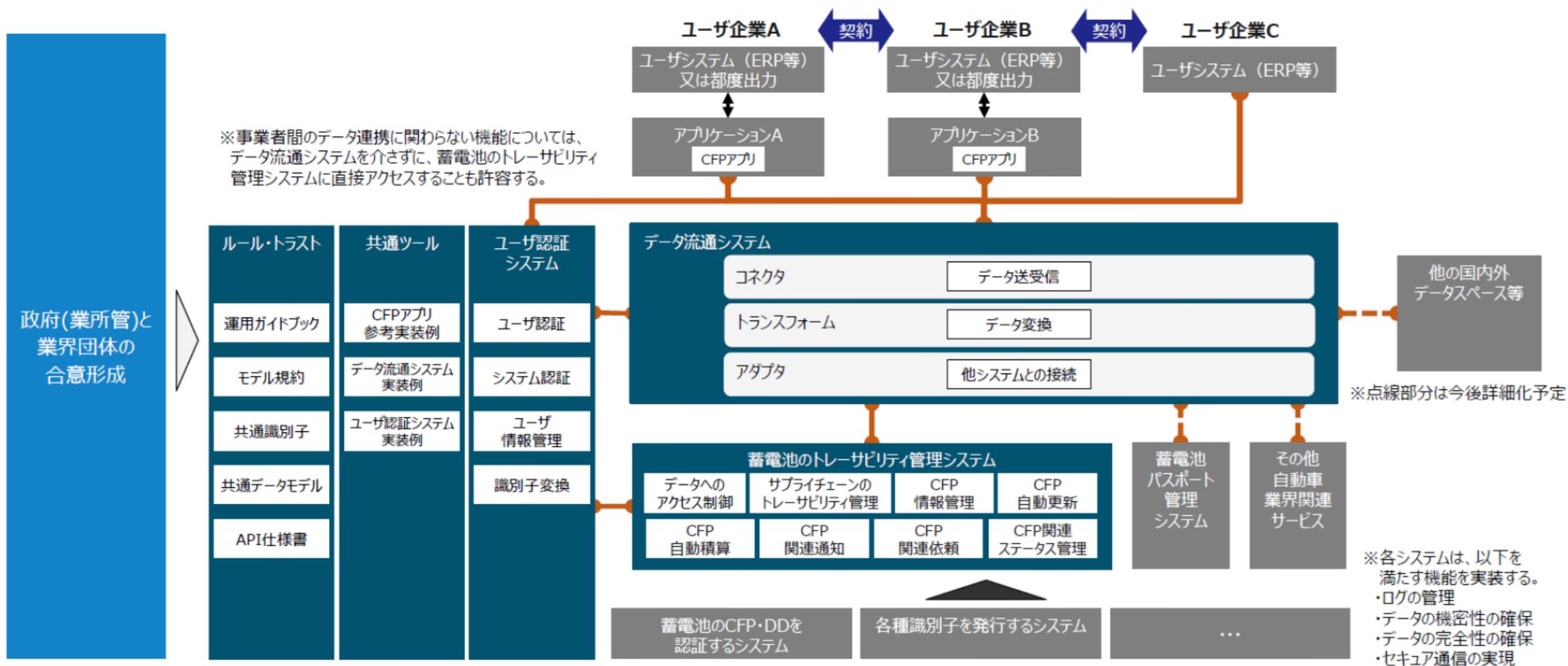


ウラノス・エコシステム プロジェクト事例



ウラノス・エコシステム プロジェクト事例

- アプリケーションと各システムがAPIを通じて疎結合することにより、データ連携を実現



Open Data Spaces (ODS)

- ウラノス・エコシステムを支える技術仕様
(アーキテクチャ、プロトコル)
- IPAが開発
- 年間予算：1億ユーロ超
(設計とソフトウェア開発費のみ)

おわりに

- 欧州ではオープンサイエンスとデータスペースのクロスオーバーが。
- 欧州はデータスペースに関して日本を重要なパートナーと見ている？
- 日本の大学の先生もデータスペースを使う日は近いかもしれない。